

# 花見酒 桜にあらず

## ツツジかな

妙楽寺は、延宝年間(1673年~1681年)の洪水で本堂や庫裏を流失した後、天和年間(1681年~1684年)に浄土宗融通派の僧・一空知三唱阿上人らが再建したと伝えられており、その当時から境内には「オオムラサキツツジ」(以下「ツツジ」)があったと伝えられています。

### オオムラサキツツジの歴史

昭和26年、このツツジは河野真成さん(妙楽寺住職)の先代が、妙楽寺にきた当初、樹齢約300年、戦争などで手入れができない時代もあり、かなり弱っていました。

先代は瓶花・煎茶の通仙流家元であったこともあり、このツツジをふびんに思い、思い切つて弱っているところを切りました。当時剪定をお願いした植木屋さんからの「これは大きくなりますよ」という言葉を信じ、その後も大切に手入れをしたといいます。

### 妙楽寺



河野真成さん(右)、順子さん(左)  
毎朝「おはよう」と話しかけるのが日課



のぼり旗(川中島の合戦をまとったもの)とのコラボレーションも圧巻



夏場はたくさんの水が必要。一晩中出しっぱなしのことも。根っこだけでなく、枝や葉の裏まで一通り水やりをしていたら2、3時間あっという間に経っている。雨が降る日も水やりは欠かさず、花が咲き終わると、花摘み、剪定、肥料、消毒と、一年中ツツジの手入れに終わりはない。起きたら朝一番に顔を見て元気がチェック。葉っぱを見ればわかるという。

ツツジの左下にある灯籠は、中西家(尾張徳川家と姻戚関係を持ち、後に尾張藩天満御屋敷奉行などを務めた名家「もりぐち歴史館」)から寄進されたもの。ツツジとともに歴史が感じられる。

「今年も咲いたね、よく頑張ってくれてる。  
家族だからずっと一緒にいたいね」



ご夫婦の、わが子を見つめるような眼差しは、  
ツツジの一番の栄養源。

なすき、当手を懐かしんでいました。このご夫婦の決断が、今もきれいな花を咲かせています。

### 長寿のツツジをみてほしい

「魂が宿っている霊樹ですね。と言ってくれる人もたくさんいて、これを見たら長生きするとの言い伝えもありますよ。元気をもらいに来る人や、感動して涙する人もいます。木のそばにきて元気な霊気を皆さんも感じてくださーいと真成さん。

「ライトアップした夜のツツジもきれいで、宴を催すことも。ツツジはたくさんの方に元気を与えてくれていま

び、ツツジは活力を取り戻します。その後、先代から跡を継いだ河野夫妻も、ツツジへの変わらぬ手入れを欠かさなかった結果、昭和58年に大阪府指定天然記念物となりました。

### 病気になるツツジ

しかし、平成元年、ツツジは病気になる。樹医第一号といわれている故山野忠彦さんに診断を依頼。

「治療には高額な費用。私がしづついたら、家内が子どもが病気だったら、借金してでも家族だから助けるでしょう」と言っただけです」と真成さん。

奥さんの順子さんは微笑みながらう

す。これからは花摘みの時期。きれいに咲いた花が満開を過ぎると、摘んであげないとかわいそうで。木は話せないけれど、全部聞いているんです。頑張つて咲いたねと褒めてあげると、来年もまた咲こうって思いを持ってくれるのですよ」と笑顔の順子さん。まるで家族の話をしてくれているように、枝をさすりながら話してくれました。ツツジも人間と同じであり、たくさんの愛情が注がれることで、今を元気に生きています。

取材日 4月22日

場 守口市大久保町4-25-18

TEL 06・6901・5985